

2021 年度
事業報告書

自 2021 年 4 月 1 日
至 2022 年 3 月 31 日



I. 個別の事業活動に関すること

1. つくばエキスポセンターの運営に関する事業【公益1・収益1】

つくばエキスポセンター（以下、「センター」という。）の2021年度の入館者数は121,527人（2020年度：70,606人、2019年度：176,296人）であり、2019年度の約7割となった。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策（以下、「感染拡大防止対策」という）による外出自粛等の影響により来館機会が減少したと考えられるが、コロナ前（2018年度：194,150人）と比較すると昨年度の約4割から約6割に回復した。

2021年度中、茨城県独自の「非常事態宣言」等が発令されたが、知事の要請に応え感染拡大防止に努めながら開館を継続した。9月のはやぶさ2に関わる展示などは予約制による人数制限を行いながら実施した。団体来館者については感染状況に応じてキャンセルや延期が多数発生し、入場者数の動きに影響が現れた。このような中、10月には1986年の開館以来の来館者総計が600万人を達成した（500万人達成：2015年7月）。

その他、感染拡大防止対策としては、施設の抗ウイルスコーティングを前年度に続き11月に再度実施するとともに、マスク着用や消毒、3密回避などの基本的対応の徹底に努めた。これらの資金については文化庁からの文化芸術振興費補助金を活用した。

(1) 展示【公益1】

臨時休館からの開館にあたって、感染状況を見て、毎日の消毒作業を実施しながら、段階的に運用を休止していた体験型展示物を再開した。一方、館内の場所案内をより分かり易くするため、案内表示を新たに設置した。また、老朽化対策として、各展示場において古いPCの入替を行った。

地元とも可能な限り共存していくことを目指し、つくば市や新たに設立された「つくばまちなかデザイン株式会社」との定例的な打合せによる情報収集や地域動向を見定めつつ、展示の全体の構想案の見直しや催事企画を進めてきた。

① 1階展示場および屋外展示場【公益1】

1階展示場では、2022年2月11日から2月27日まで「風で動くいきもの？テオ・ヤンセン作品に触れよう」にてテオ・ヤンセン作品の動態展示も含め特別展示を行った。密室空間となる「サンクルーザー」は引き続き運用を中止した。

屋外展示場では、屋外広場の人工芝の貼り替えを行った。また、新たにコスモ星丸フォトスポットを設置した。

② 2階展示場【公益1】

「地球温暖化クイズ」を改修し、「かんきょうクイズ」としてリニューアルを行った。核融合実験炉ITERの最新情報を伝えるパネルを追加した。

創造の森“ワンダーラボ”にて第62回科学技術映像祭の入選作品の上映を

通年で行った。

(2) 催事【公益1】

催事事業は、引き続き感染拡大防止対策を徹底し、内容や定員等を制限した上で実施した。

① 一般催事【公益1】

「科学教室」15テーマ113回、「サイエンスショー」10テーマ165回を実施した。また、新規イベント「ドローンを飛ばそう」を17回実施した。共催イベントは、ワークショップ「自動運転で動く車のしくみ」を3回（BMW・全国科学館連携協議会）、「乾電池教室」と「電池エネルギー体験教室」を各1回（乾電池工業会）、第46回ミーツ・ザ・サイエンス「南極の今！～つくばにもどった隊員たち語る～」(国立極地研究所)を開催した。

新規イベントとして、外部資金を活用し、乳幼児イベント「エキスポひよこクラブ」を5回開催した。

② 特別催事【公益1】

春の企画展「ふくしまの星・月の風景写真展」を3月20日から4月18日まで開催し、企画展「星座展ーギリシャ神話からキトラ古墳までー」を4月24日から6月27日まで開催した。

夏の企画展では、「エッ、ほんと？びっくり！大科学実験」を7月17日から8月31日まで開催。NHKの大科学実験で実際に使用された実験機器と映像やパネルで実験の内容を紹介した。

秋・冬の企画展では、好評だった「ふくしま星・月の風景写真展」の第2弾を「ふくしま星・月の風景写真展2」として10月30日から11月28日まで開催した。

2022年春の企画展では、手を触れず錯覚を体験できる『『錯視の世界』～あなたは今度もかならずだまされる！～』を2022年3月5日から5月8日まで開催した。

また、「小惑星探査機『はやぶさ2』帰還カプセル展示（協力：JAXA）」を9月に事前予約制による人数制限の下で開催し、実物大模型の展示、プラネタリウムのはやぶさ2特別番組の上映などを組み合わせて開催した。5日間合計2,327人の入場者があった。

(3) プラネタリウム及び3Dシアター【公益1】

① プラネタリウム【公益1】

2020年度から引き続き、感染拡大防止対策として収容定員を150名（通常210名）として運用した。星空解説番組、こども番組、過去に好評であったオリジナル番組のリバイバル上映のほか、「HAYABUSA2～REBORN 帰還バージョン」「ハナビリウム～花火って、なんであるの？～」など話題性のある作品を特別番組として上映した。番組選定において、4月から導入したConnected Dome Library（コニカミノルタプラネタリウム社）を活用し、運用の

効率化を図りながら上映番組数を増やすことを可能とし、コンテンツの中から作品を厳選し上映した。

センターが過去に制作したオリジナル番組の「火星にいこう MY LIFE ON MARS」等が他のプラネタリウム施設（7館）で上映されライセンス料の収入を得た。

天体観望会は、感染状況等に鑑み、定員を削減し、9月から再開し、奇数月に実施した（計4回）。星空コンサートは人数制限の下、4月に1回実施した。

7～9月に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックに関連し、つくば市の協力の下、プラネタリウムを活用した臨場感ライブ実証試験を行い、臨場感という視点で番組中継面、設備面に関して今後の改善点など評価した。

プラネタリウムホールの環境改善のため、空調加湿器にイオン交換式純水器を設置した。

② 3Dシアター【公益1】

感染拡大防止対策として、消毒・清掃の徹底に加え、上映回数は通常1日12回から6回へ、定員は30人から4組16人に減らして、3D映像の上映を再開した。

（4）ミュージアムショップ【収益1】

科学に関連した商品提供、コスモ星丸などのオリジナルグッズの製作、センターの企画展やプラネタリウム番組に関連した商品の提供を行い、新型コロナウイルス対応の中、売上向上に努めた。

（5）その他【公益1・収益1】

① 学会・協議会等活動への参加・協力【公益1】

日本博物館協会等の「教員のための博物館の日」に参画し、8月に開催した。【公益1】

② 「ほしまるカフェ」の営業を7月に再開した。【収益1】

③ 駐車場及び財団の事業目的に沿った施設等の貸与・貸付を行った。【収益1】

2. 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進、科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進に関する事業【公益2・収益2】

（1）科学技術の普及啓発及び人材育成の促進【公益2】

- ① 科学技術週間における筑波研究学園都市研究施設一般公開に対する支援をはじめとする施設料金割引や展示・催事等の実施【公益 2】
科学技術週間におけるセンター入館料割引を行うとともに、科学技術映像祭の入選作品上映会等を実施した。
- ② 科学技術を通じた地域コミュニケーションの創造のための事業【公益 2】
「みらいの科学技術振興事業」（つくばリンク事業）の告知を行った。
スーパーサイエンスハイスクール（SSH）校と連携し、地域コミュニケーション創造のための新しい学校連携事業を検討し、2022 年度実施に向けて準備を進めた。
- ③ 全国ジュニア発明展【公益 2】
全国ジュニア発明展の事業目的を継承し、全国的な展開の方向性を改め、第 65 回茨城県児童生徒科学研究作品展及び茨城県発明工夫展県南地区展に協力し、地元茨城県の小中学生の科学研究・発明工夫活動を支援した。
- ④ 科学技術の普及啓発及び人材育成を促進する事業の共催支援・協力【公益 2】
下記の事業に主催、共催、後援、協力を行った。
 - ・ 第 63 回科学技術映像祭（主催）
 - ・ 第 14 回日本地学オリンピック（共催）
 - ・ 第 17 回全国物理コンテスト「物理チャレンジ 2021」（共催）
 - ・ 第 11 回科学の甲子園茨城県大会（共催）他 7 件
- ⑤ おとなのためのサイエンス講座【公益 2】
新型コロナウイルス感染状況等に鑑み、新規講座を含め、当初予定 11 講座のうち 9 講座を開講し、受講生は 76 名であった。
- ⑥ アウトリーチ活動【公益 2】
感染拡大防止対策の為、派遣範囲等の制限（つくば市近隣 片道 30 km 以内）を継続した。61 回実施（3 密となる移動プラネタリウムは休止）し、参加人数 2,891 人であった。
つくば市と共催により出前教室「親子で科学実験工作」を開催した。加えて、新たな試みとして、外部資金を活用し、学校に通うことができない子ども向けの科学体験活動や学校向けに移動天文教室を実施した。
- ⑦ エキスポ科学クラブ【公益 2】
小学校 3・4 年生限定としたクラブ員数 65 名で、31 教室を開催した。2022 年度の新たな試みである小学校 5 年生クラスの開催に向けて準備を進めた。
- ⑧ 科学館連携事業【公益 2】
長崎市科学館に巡回展示物「電気の道」を貸出した。

⑨ 博物館実習

学芸員育成のための教育支援・職場体験、企業実習の受け入れ【公益 2】
学芸員実習生 4 名を受け入れた。

⑩その他【公益 2】

つくばインターナショナルスクール (TIS) と連携・協力して、11 年生 6 名の生徒がセンターの英語版プラネタリウムガイド (冬)、紹介動画等を作成し、ホームページや SNS で配信した。

(2) 科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進【公益 2・収益 2】

① 助成支援【公益 2】

「筑波会議 2021」への助成を行った。

② つくばサイエンスニュースによる情報発信【公益 2】

記事・コラムの掲載は 211 本であり、アクセス数は 326,269 件となった。

③ 研究者等語学研修【収益 2】

第 44 回英語研修 (通年クラス) の受講者数は 137 名 (11 クラス) となり、感染拡大防止対策として、全てオンライン授業で実施した。秋クラスについては 33 名 (3 クラス)、冬クラスは 60 名 (5 クラス) の受講者数であった。

3. 科学技術関係団体等に関する事業【他 1】

「科学技術団体連合」及び「牧友会」の事務局業務については、2018 年 4 月から引き続き休止している。

4. 情報発信・広報活動

(1) 情報発信 (情報公開)

「2020 年度事業報告書及び計算書類等」「2021 年度事業計画書及び収支予算書等」を財団ホームページで公開した。

2021 年 4 月～2022 年 3 月末のページビューアクセス数：

①つくばサイエンスニュース	326,269 件
②つくば科学万博記念財団ホームページ	43,200 件
③つくばエキスポセンターホームページ	1,766,237 件

(2) 広報活動

筑波研究学園都市記者会等へのプレスリリースを 8 件行った。新聞掲載は

17件、他154件の撮影・取材や画像提供等に対応した。

公式YouTubeの開設のほか、ホームページやSNS(Instagram、Facebook)を利用した広報を行った。また、昨年度に引き続き、「コスモ星丸」をミュージアムキャラクターアワード2021にエントリーし、全国第5位(昨年8位)となった。

スマートフォン対応の強化を念頭に財団ホームページのリニューアルを行ったほか、センターホームページについてもデザインを見直した全面的なリニューアル作業を行い、2022年度初めの運用開始に向けて準備を進めた。

(3) 情報セキュリティの強化

サイバー攻撃に対する財団ホームページ及びセンターホームページのウェブサーバー、メールサーバーのセキュリティサービスを引き続き導入している。

5. その他

財団活動を効率的かつ効果的に進めていくため、「公益財団法人つくば科学万博記念財団中長期計画」を2022年3月に策定した。

地域における役割の認識や期待に応えるため、つくば市や新たに設立された「つくばまちなかデザイン株式会社」との定例的な意見交換を継続した。

II. 財団運営に関する総合的な活動に関すること

1. 代表理事・業務執行理事及び理事会・評議員会

代表理事及び業務執行理事の執行体制で財団経営を担い、業務を適切に執行した。理事会・評議員会については、定款等で定められている通り運営した。(理事会4回、評議員会3回)

2. 監事監査

理事の業務執行及び事業報告、計算書類等の監事監査を行った。

また、これに資するため外部監査として公認会計士による監査を実施した。

○5月20日(木)～22日(土) 公認会計士による監査

○6月1日(火) 監事監査

3. 基金の運用

予算を上回る運用収益を計上した。また、債券の償還(額面17億円)に伴い、3月償還分を除く額面12億円分について年度内に再投資を実施した。

4. 外部資金

文化庁による文化芸術振興費補助金を獲得し、館内の新型コロナウイルス感染症感染拡大予防等の事業を実施した。また、3種の外部機関助成金を獲得し、新規館内催事やアウトリーチ活動を実施した。

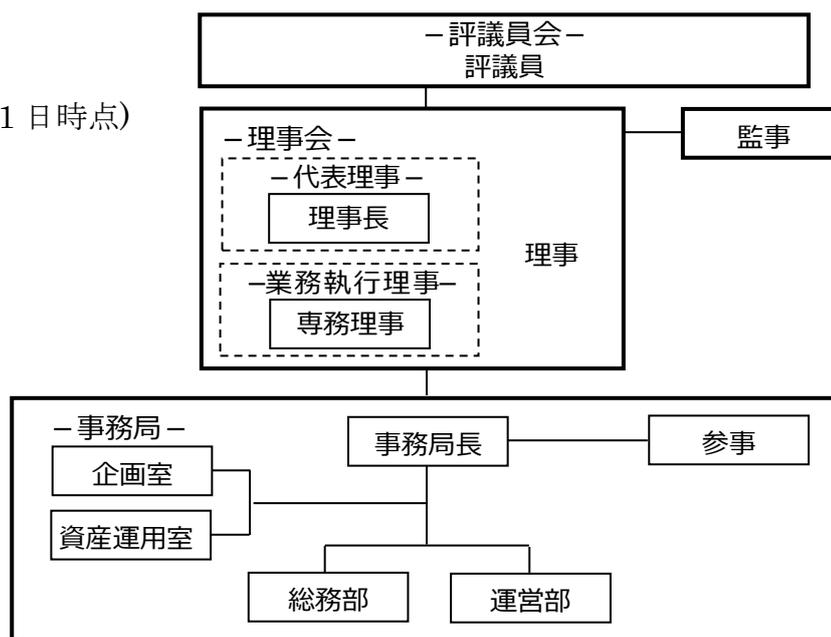
5. 施設・設備【公益1】

計画的な施設・設備等の整備（受変電設備及び自家発電設備改修工事）及び老朽化等の対応を行った。

6. 業務執行体制

公益財団法人の代表理事として理事長、業務執行理事として専務理事を、事務局に総務部、運営部、企画室、資産運用室を置き、効率的かつ効果的な事業運営を行った。

組織図
(2022年3月31日時点)



7. その他

法定点検が義務付けられている消防用設備等点検及び防火対象物点検（9月、3月）を実施し、適切に届出を行った。加えて、消防計画に基づき、消防訓練（7月、3月）を2回行った。

他に、建築基準法に基づく防火設備定期点検（5月）を行った。

事業報告書の附属明細書について

2021年度事業報告については事業報告書に記載のとおりであり、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。